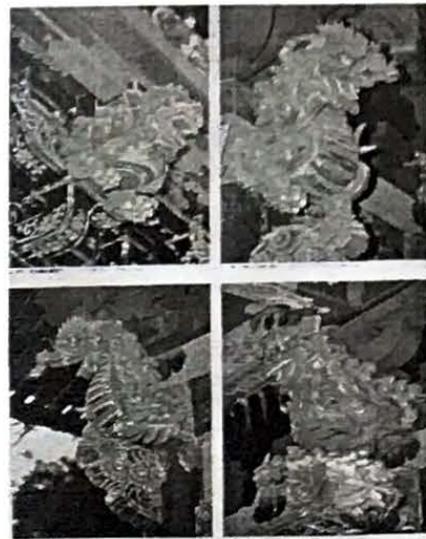
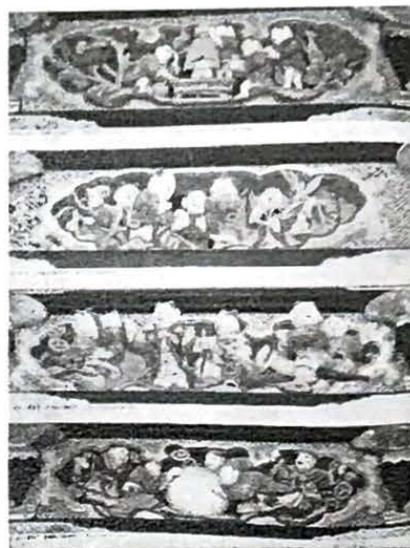


国宝「歓喜院聖天堂」 を拠点とした彫刻師の系譜 —極彩色彫刻の美と技術をめぐって—



熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

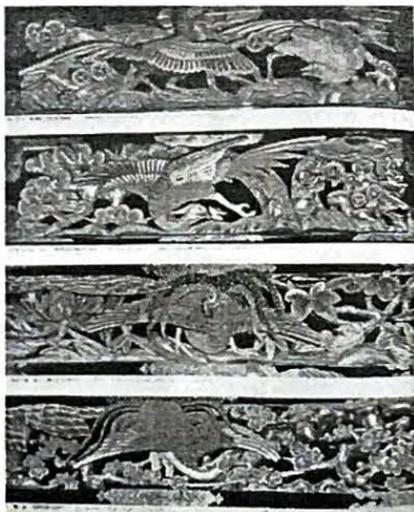
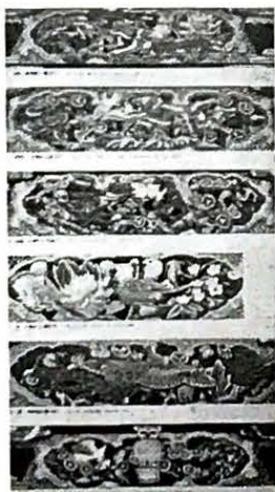
1



3

平氏の源宗奇

日光東照宮の彫刻群



2

80億
13億

↓

50年かかるといふ

日光東照宮 建造物概要

日光東照宮の社殿そのほとんどがご鎮座から20年後の寛永13年(1636)に建て替えられた。

陽明門(国宝)など55棟、その費用は、金56万8千両、銀百貫匁、米千石(『日光山東照天権現様御造営御目録』より)を要した。

造営の総責任者には秋元但馬守泰朝、工事や大工の総責任者には大棟梁甲良豊後宗広があたり、わずか1年5ヶ月の工期で完成した。



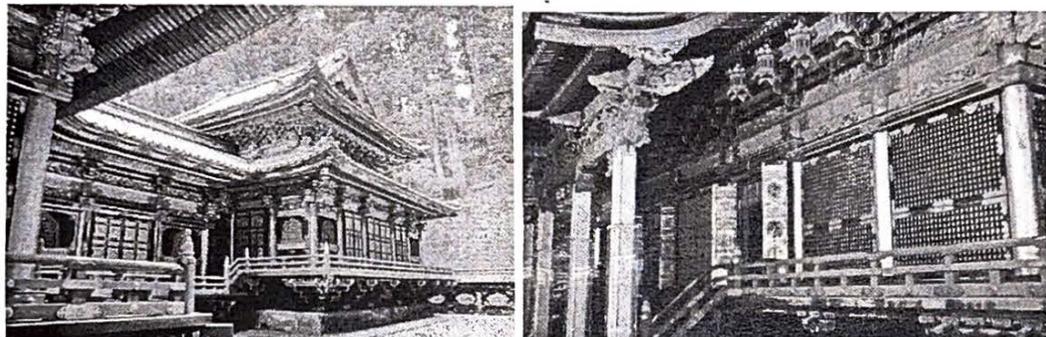
国宝「陽明門」



国宝「唐門」

4

日光輪王寺・大猷院廟



天文21年(1552)第16代忍城主成田長泰の母を大檀那として聖天堂造営。紵絲斗帳(県指定文化財)奉納。

慶長9年(1604)徳川家康は、伊奈備前守忠次に聖天堂造営を命じ、50石の朱印を付す。

寛文10年(1670)類焼にあい、その後65年間、仮本堂で法灯が守られる。

5

7

妻沼聖天山の歴史

治承3年(1179)斎藤別当実盛公は、武蔵国長井庄に大聖歡喜天を奉り、聖天宮を開き、妻沼聖天山を開基した。

建久8年(1197)聖天宮の改修と別当坊歡喜院長樂寺を建立する。

応永12年(1405)第12代忍城主成田五郎家時により聖天堂再建。

享保19年(1734)、歡喜院の海算院主は、聖天山信徒の総意のもと、聖天堂の再建を決意。林兵庫正清(政清)に設計を依頼する。

享保20年(1735)、林正清を総棟梁として聖天堂再建開始。石原吟八郎が彫刻棟梁を担う。

寛保元年(1741)、本殿が上棟を迎える。

寛保2年(1742)、本殿竣工により遷宮される。

宝暦5年(1755)、拝殿と中殿を着工し、翌年に上棟。

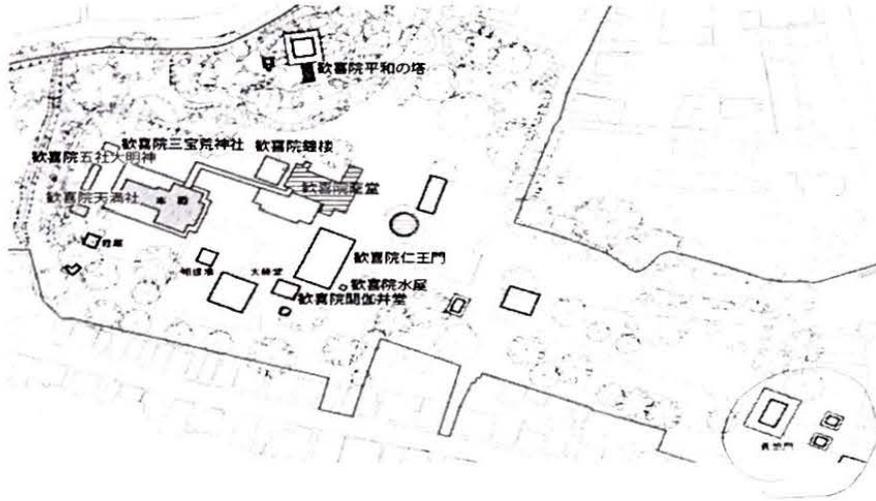
安永8年(1779)、屋根のこけら葺を瓦棒銅板葺に改修し、現在につながる全容が完成。

6

8

フロント
中央部分の仕様

妻沼聖天山・関連建造物の位置図



9

国宝「歓喜院聖天堂」

国宝「歓喜院聖天堂」は、享保20年(1735)から宝暦10年(1760)に掛けて、林兵庫正清及び正信らによって建立された。これまで知られていた彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった5種類の漆(黒、赤、黄、緑、こげ茶)の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、またそのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価された。

江戸中期

石原系

11

うるしの使われ分け技術

国宝「歓喜院聖天堂」



10

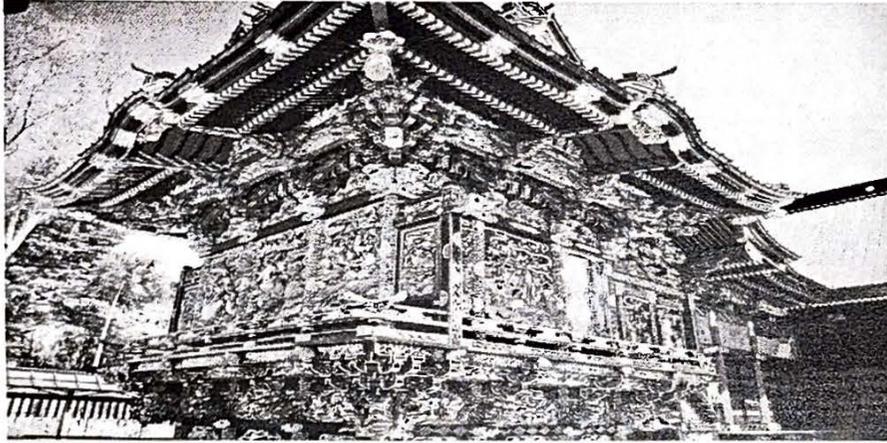
奥殿・中殿



日光東照宮の創建から百年あまり後、装飾建築の成熟期となった時代に、棟梁の統率の下、東照宮の修復にも参加した職人たちによって、優れた技術が惜しみなくつぎ込まれた聖天堂は、江戸後期装飾建築の到達点といえる。

12

奥殿彫刻



13

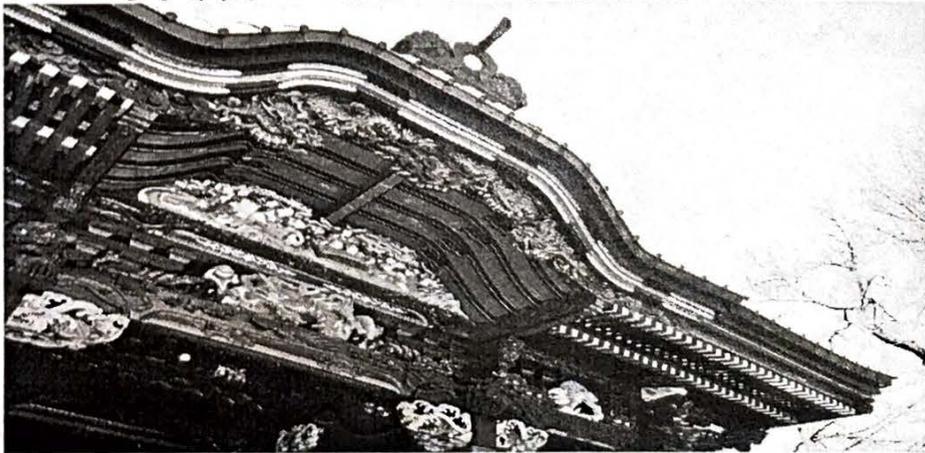
囲碁遊び

地蔵に



15

拝殿の破風「琴棋書画」



14

すなどり



16

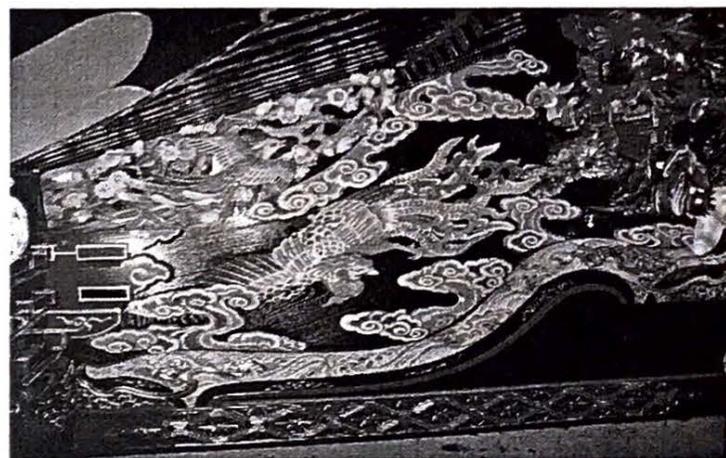
二つの鳳凰

精緻を極めた彫刻の一つの例が、奥殿の外部における南側と北側に施された一対の「鳳凰(ほうおう)」

この彫刻は初代吟八郎の次の世代である名工二人によって彫られたものであり、彫刻群唯一の銘があり、南側を小沢五右衛門常信が、北側を後藤茂右衛門正綱が手掛けた。二つの彫刻の作風は異なり、常信作は、彫りの緻密さによって鳳凰の表情に厳しさを与え、正綱作は、大胆な彫りが表面を立体的に仕立てている。

17

後藤茂右衛門正綱「鳳凰」



19

小沢五右衛門常信「鳳凰」



18

江戸時代の建築の推移

安土桃山時代～江戸初期 豪華建築・霊廟建築の進展

上之村神社・雷電神社本殿 1636 日光東照宮

1661 秩父三峰神社本殿

江戸時代中期 幕府主導の大規模事業(城・菩提社寺など)

と庶民信仰社寺での壮麗建築・彫刻の出現

1722 太田「冠稲荷神社本殿」 1735 東松山箭弓稲荷

1744 妻沼「歓喜院聖天堂」奥殿 1746 上新田「諏訪神社本殿」^{江戸}

江戸時代中期以降 幕府の社寺建築に対する質素儉約令により
彩色彫刻や装飾性に富んだ建築から素木彫刻などへ。

1752 青山神社本殿 1760 妻沼「歓喜院聖天堂」拝殿

(上州花輪村、熊谷周辺の大工棟梁、彫物師による技術伝承)

三宝荒神社、五社大明神、天満社、関伽井堂、貴惣門へ

20

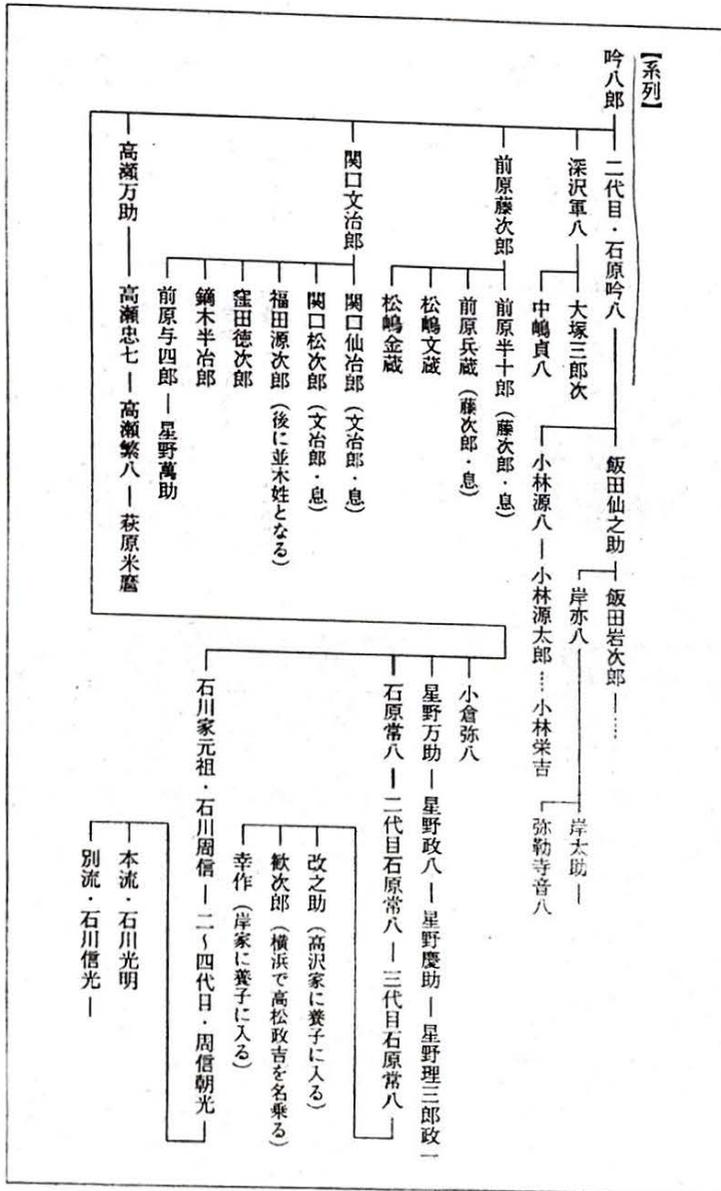
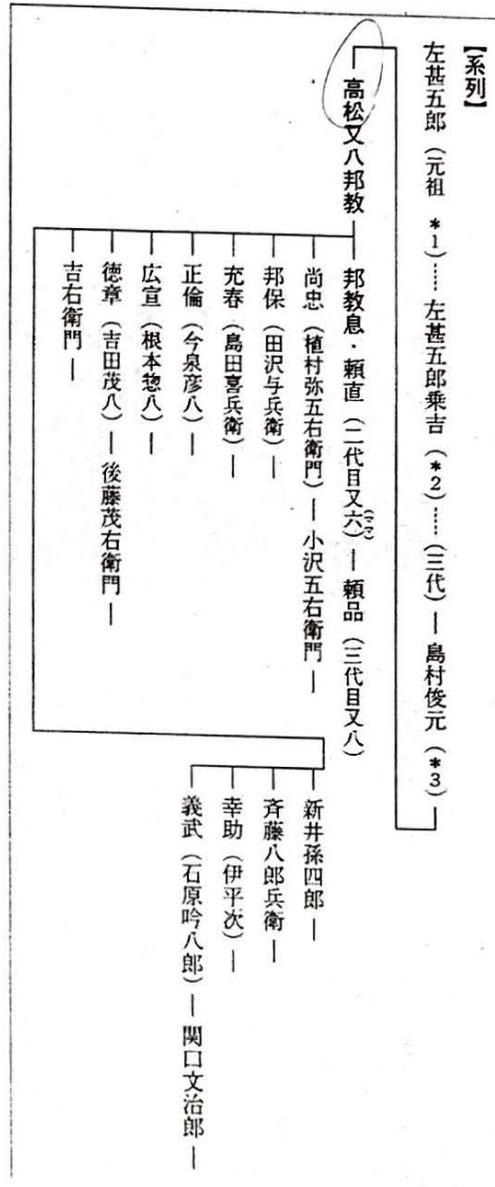
石彫 大工 林 宗

彫刻師の系譜

和彫り

阿部修治『甦る「聖天山本殿」と上州彫物師たちの足跡』2011、以降出典参照

日光



堀内・平内家 続く大工棟梁の足跡

平内家			堀内家		
平内大隅 濟部政長 平内備中 濟部政長	同・政治 <small>まさほる</small>	同・応勝 <small>まさかつ</small>	平内大隅流 ・平内正信 (正清とも)	同・吉政 (※1)	四天王寺流 堀内為吉
世良田東照宮 本・拜殿、唐門等 (※2)	日光東照宮本社・ 仏殿修理 大猷院靈廟修理 日光御宮修理	江戸城本丸 浅草寺本堂 (観音堂)	日光東照宮 増上寺台徳院靈廟 日光輪王寺常行堂 輪王寺大猷院靈廟 嚴有院靈廟	豊国廟 方広寺大仏殿再建	聚楽第
十代将軍・家治公奉納の宝曆 一三年(一七六三) 銘の棟札	正徳五年(一七一五)	元禄三年(一六九〇)	三代将軍家光公の廟所 四代将軍家綱公の廟所 国宝指定されていた旧堂 は、戦災で焼失 改修	豊臣秀吉公の廟所 徳川家康公の廟所 二代将軍秀忠公の廟所	豊臣秀吉公の政庁兼邸宅
					備考

大工棟梁・林家 正清以降の足跡

林家			林家			大工棟梁
八代目 同・亥助	七代目 良作	六代目 同・正啓	五代目 同・正道	四代目 同・正尊 (正逢)	三代目 同・正義	二代目 同・正信
聖天山平和の塔、 能護寺鐘樓修復		聖天山仁王門再建、能護寺 鐘樓再建、妻沼大我井神社、 葛和田大杉神社神輿	聖天山貴惣門、歡喜院本坊 再建、妻沼大我井神社	弁財巖島神社、大野稻荷 社(天保二年・一八三一)、 弥藤吾氷川社(天保七年・ 一八二六)	聖天山仁王門修復、江波天 神社、上須戸八幡神社(安 永七年・一七七八)、西野井 殿権現社(長井神社)、西城 神社	聖天堂中殿・拝殿造営、聖 天山五社明神社、天満宮、 荒神社修築、聖天山鐘樓建 立、能護寺鐘樓、出来島熊 野神社、間々田稻荷神社神 輿、善ヶ島神社、高城稻荷 神社、西城虎薬師の厨子
帝釈天・大鐘 樓(関東一の大 鐘樓)		柴又帝釈堂設 計、太田大光 院鐘樓、尾島 浄蔵寺鐘樓、 尾島稻荷神社	大間々光荣寺、 尾島三柱神社	小川八宮神社	三峯神社隨身 門	三峯神社本・ 拝殿、 尾島町徳性寺 観音堂
						聖天堂(本殿) 奥殿
						妻沼地区の寺社名
						その他の寺社
						平内大隅流・ 林家初代 兵庫頭正清

林兵庫正清 記銘の建造物

寺社名	棟木銘・墨書銘	備考
桐生・青蓮寺 須弥壇 延享元年 (一七四四)	「武蔵国妻沼町大工 林兵庫門弟作 小林 武助 内田清八 四 月朔日」	この時の、本堂大工棟 梁は林兵庫正清、彫刻 棟梁が石原吟八であり、 小林武助、内田清八ら は大工仕事として参加 している。
埼玉江南・諏 訪神社 延享三年 (一七四六)	社殿棟札下書裏に 「細工人妻沼邑林 兵庫門弟中條丈八 郎・・・」以下六名 の名前が記されてい る。	棟札の「延享三年」の 銘により、妻沼聖天宮 の工事が一時中断して いた折、工事関係者一 同がこの社殿造営に携 わっていたものと考え られる。
群馬世良田 八坂神社 宝暦六年 (一七五六)	棟札に、「武務妻沼 邑棟梁 林兵庫藤原 正清、山田郡沖之郷 中村丈八正道、武州 玉之井村今村勘六正 信」。	当社は貞観一八年 (八七六) 丙申の創建 (上野国新田祇園牛頭 天王縁起) と伝わる歴 史ある神社。正清は、 宝暦三年(一七五三) に既に没している。
群馬尾島 賀茂神社 宝暦九年 (一七五九)	本殿棟札に「上州妻 沼村大工林兵庫正 清」。身舎正面羽目 板の墨書銘に、「妻 沼村兵庫門石原長八 宝暦九年賀茂宮御宮 武州女沼邑棟梁林兵 庫」。	彫刻の墨書銘に、「上野 国勢多郡田面村 彫物師 深澤軍八規武門人大塚 三郎次」とあり、大工 は林兵庫正清一派の石 原長八、彫刻は深澤軍 八規武(初代石原吟八 門人)の一派によるも のと分かる。
群馬尾島 稲荷神社本殿 宝暦一〇年 (一七六〇)	「大工林兵庫門弟 武 蔵国門榛沢郡中清村 棟梁大谷幸八、幸八 門弟飯塚文次郎、中 村丈八。	棟札にある宝暦一〇年 の建造では、林兵庫正 清は既に没している。
群馬尾島 亀岡神社 宝暦一二年 (一七六二)	宝暦一二年銘の身舎 壁板墨書銘に、「武 蔵国幡羅郡長井庄妻 沼村林兵庫門弟上 野国山田郡沖之郷大 工棟梁丈八良」。	棟梁「丈八良」は、延 享三年・諏訪神社の中 條丈八郎、宝暦六年・ 八坂神社の「中村丈八 正道」、宝暦一〇年・稲 荷神社本殿の「中村丈 八」らと同一人物と思 われる。
長野伊那 熱田神社 宝暦一二年 (一七六二)	「武蔵国旗(ママ) 羅郡長井庄妻沼村林 兵庫門人池上善八 郎」。	「伊那の日光」、重文指 定。彫刻棟梁は、聖天 宮拝殿彫刻棟梁だった 関口文治郎。

上州彫物師たちの関東圏内での施工

場所	彫師名	特徴
熱田神社 (信州・伊那)	関口文治郎	宝暦一二年(一七六二)、「伊那の日光」と称され、国・重文に指定されている。
飯縄権現堂 (高尾山)	石原雅諛・ (初代常八)	安永九年(一七八〇)、初代常八の棟札が残る唯一の作品。
愛宕神社 (千葉・野田)	石原主信・ (二代目常八)	文政七年(一八二四)、大工棟梁・三邑正利と組んだ初期の仕事。
龍穩寺 (越生町)	岸亦八 (初代)	天保一三年(一八四二)、経蔵にある横幅七 <small>トイ</small> 超の大彫刻や、楼門、熊野神社の彫刻には、亦八の特徴が際立っている。
正覚寺 (群馬・沼田)	岸亦八 (初代)	万延元年(一八六〇)、亦八の山門彫刻としては最も豪華ともいわれる。
天引観音堂 (常陸)	弥勒寺音八	安政四年(一八五七)、建物は焼失して現存しない。
笠間稲荷神社 (笠間)	弥勒寺音八	万延元年(一八六〇)、胴羽目彫刻制作の途中で皇居造営に招集されている。

石原吟八郎の足跡

寺社名	年代	大工棟梁	備考
本庄・ 金鑽神社	享保九年 (一七二四)		棟札写により「花輪の甚八」作と伝えられる。
深谷・ 吉祥寺須弥檀	享保一八年 (一七三三)		須弥檀の銘
妻沼聖天宮 奥殿	延享元年 (一七四四)	林兵庫正清	彫師名は、江南・諏訪神社棟札下書から推定。
桐生・ 青蓮寺本堂	延享元年 (一七四四)	須弥壇に林 兵庫正清・ 等	欄間に石原吟八郎義武の銘が残る。
江南・ 諏訪神社本殿	延享三年 (一七四六)	林兵庫正清 内田清八郎	「彫刻大工棟梁北上州花輪村石原吟八郎」の棟札。
花輪・ 祥禅寺本堂	宝暦四年 (一七五四)		校割帳 ^(ママ)
高崎・ 八幡八幡宮	宝暦七年 (一七五七)		古文書

関口文治郎の足跡

※477人 40が、177710

寺社名	年代	大工棟梁	備考
医光寺本堂 (黒保根)	延享四年 (一七四七)	町田弥七郎栄信	棟札銘
妻沼聖天宮・奥殿	宝暦二年 (一七五二)	林兵庫正清 / 正信	吟八郎の仕手 / 棟梁代行
妻沼聖天宮・中殿	宝暦六年 (一七五六)	林兵庫正信	彫物棟梁代行
医光寺欄間 (黒保根)	宝暦六年 (一七五六)	町田弥七郎栄信	(※1)
妻沼聖天宮・拜殿	宝暦一〇年 (一七六〇)	林兵庫正信	彫物棟梁
太郎神社 (黒保根)	宝暦一〇年 (一七六〇)	瀬谷弥平	部材名
三峯神社本・拜殿	本殿・ 宝暦二年 (一七六二) 拜殿・ 寛政二年 (一八〇〇)	三峯神社の 「寛政日鑑」 に林兵庫(正 信)の名	三峯山十一面堂 棟札の、上州彫 師名は、関口文 治郎ほか六名
岩井観音堂 (榛名町)	宝暦二年 (一七六二)	清水仁右衛門	木鼻銘
熱田神社 (信州・伊那)	宝暦二年 (一七六二)	高見(池上) 善八	神社文書により 彫師名が判明
山名八幡宮 (高崎)	明和六年 (一七六九)	本殿向拜手挟に「東上州勢田郡上田澤村関口文治郎」の墨書	
館林聖天宮	明和六年 (一七六九)	大正元年焼失、唐獅子が若干残る	
一本木稻荷社 (前橋)	明和七年 (一七七〇)	馬場左近藤原福充	棟札に関口文次(ママ)郎ほか四名の銘
金剛寺 (宮城村)	安永元年 (一七七二)	欄間の龍に「御公儀御棟梁」 ほか三名の銘(※2)	「武江公儀」
長柄神社 (邑楽町)	安永八年 (一七七九)	町田兵部	
能説院 (大間々)	安永九年 (一七八〇)		
不動寺 (箕郷町)	安永九年 (一七八〇)	青山友治	
秋葉神社 (藤岡市)	安永九年 (一七八〇)	斎藤新蔵	
赤城若御子神社 (箕郷町)	安永一〇年 (一七八一)	古記録に「日光山彫物棟梁関口文治郎有信」の銘が残る	
桐生天満宮・本殿(※3)	寛政元年 (一七八九)	京都吉田門人町田主膳藤原栄信(弥七郎)	彫刻は、関口文治郎ほか九名。絵師は、梅性軒河仙益広ほか五名。
栗生神社 (黒保根)	寛政二年 (一七九〇)	桑原要七康利、瀬谷与一右衛門利安	棟札に「彫士武衛御棟梁関口文治在信」ほか四名の銘
榛名神社	文化三年 (一八〇六)	清水仁右衛門	関口文治郎最後の作

二代目・石原常八の足跡

新 利根川流域

寺社名	年代	備考
ときがわ町・慈光寺観音堂	享和三年 (一八〇三)	向拝木鼻が二代目・常八作と伝わる。
川越・行傳寺	文化九年 (一八一二)	二代目・常八作と推定されている。
柏・香取神社	文化一〇年 (一八一三)	石原常八主信の銘。
栃木・野木神社	文政二年 (一八一九)	棟札には彫物棟梁・星野政八、同・慶助と共に、常八の銘がある。 大工棟梁は三村和泉藤原治朝。
板倉・雷電神社	文政二年 (一八一九)	棟札に石原常八主信の銘 大工棟梁は、「武州埼玉郡本川俣村(羽生)三村和泉守藤原春友」(三村和泉守治朝)。 (※1)
野田・愛宕神社	文政七年 (一八二四)	古記録に石原主信の名。 大工棟梁は、川俣村(羽生)三邑吉左衛門正利(三村和泉守藤原治朝長男、三村家七代目)。
花輪・大蒼院本堂	文政一二年 (一八二九)	内陣欄間に石原常八主信の銘。中央の「龍」で本堂を守護させ、左右の「南泉斬猫」と、「船子和尚」により、禅思想を表現させている。
小川町・八宮神社	天保四年 (一八三三)	古記録に石原常八主信の名。 大工棟梁は林家四代目林正尊。
上田沢・大沢寺	天保四年 (一八三三)	
板倉・雷電神社	天保六年 (一八三五)	棟札に石原常八主信の銘。 江戸後期を代表する神殿彫刻。
館林・楠木神社	天保一五年 (一八四四)	絶腹に石原常八主信の銘。
大間々・光栄寺	弘化四年 (一八四七)	向拝の龍に石原常八主信の銘。
伊勢崎神社本殿	嘉永元年 (一八四八)	棟札に石原常八郎の銘。 大工棟梁は内田庄五郎藤原祐昌。
板倉・高島天満宮	嘉永元年 (一八四八)	記録に石原常八重信の名。 大工棟梁は野村熊右衛門、仙之輔、板倉、老沼仁兵衛ら。
聖天山貴惣門	嘉永四年 (一八五二)	棟札に石原常八主利の銘。
新里・善昌寺	安政二年 (一八五五)	欄間三枚に石原常八主信の名。
安中・長伝寺	安政四年 (一八五七)	欄間に石原常八主信の銘。 仏像「韋駄天像」(※2)も奉納している。
水上町・武尊神社本殿	安政五年 (一八五八)	二代目常八と三代目の長男・改之介との共作。
羽生・須影八幡神社	安政五年 (一八五八)	棟札に石原恒蔵主計の銘。
桐生・浄運寺内陣	万延元年頃	欄間に花輪常八の銘。
浄運寺前机	万延二年 (一八六一)	石原常八の刻銘。

前原藤次郎の足跡

工本 不明 不保

寺社名	年代	備考
江南村・ 諏訪神社	延享三年 (一七四六)	妻沼聖天宮造営工事の中断中に、師・石原吟八郎と共に諏訪神社造営に参加し、前原藤次郎と共に名前が残る。
秩父・ 三峯神社 本・拝殿	宝暦一二年 (一七六一) 寛政一二年 (一八〇〇)	大工棟梁は林兵庫正信。関口文治郎、並木源次郎、星野政八、小倉弥八、大塚三次郎、前原藤次郎・同兵蔵らが参加。
片品村・ 龍愴院須弥壇	宝暦一三年 (一七六三)	古記録に藤次郎・兵蔵父子の名前。
太田市・ 冠稻荷神社	明和四年 (一七六七)	胴羽目の墨書。
深谷市・ 横瀬神社本殿	安永七年 (一七七八)	棟札に岩瀬求馬正藤原治賢、前原東冶郎直賢銘。弟子の前原半十郎・兵蔵、松嶋文蔵・金蔵も参加。
深谷市・ 熊野神社	安永七年 (一七七八)	古記録に前原藤次郎の名前。
八王子・高尾山 飯縄権現本殿	安永九年 (一七八〇)	息・前原兵蔵と、弟子の松嶋金蔵が幣・拝殿の修理を手がける。
桶川・泉福寺 阿弥陀堂	天明四年 (一七八四)	欄間に前原東次郎直賢銘。
八王子・高尾山 飯縄権現本殿	文化二年 (一八〇五)	「拝殿彫刻裏面墨書」によると、藤次郎により大改修が行われている。
太田市・ 冠稻荷神社	文化一二年 (一八一五)	本・拝殿が藤次郎・半十郎(兵蔵)父子作。藤次郎は小倉弥八らと、「琴棋書画」、「七賢人」の嵌彫刻を残す。

小林源八・源太郎(熊谷源太郎)の足跡

寺社名	年代	彫工名(銘)
新宿・ 氷川神社本殿		小林正信(源八正信)の銘
東松山・ 箭弓稻荷神社	寛政九年 (一七九七)	小林源八正信
洪川市・ 早尾神社本殿	文化一四年 (一八一七)	小林源八正信作と伝わる
中之条町・ 吾妻神社本殿	文政四年 (一八二二)	小林源八・源太郎
洪川市・ 空恵寺	天保六年 (一八三五)	小林源八・他門人三名
長岡市・ 都野神社拜殿	天保一一年 (一八四〇)	小林 <small>(マ)</small> 齊源太郎の欄間龍
太田市阿久津町・ 稻荷神社	天保一二年 (一八四一)	武州玉井村小林丑五郎
高崎・ 妙見社本殿	天保一四年 (一八四三)	長谷川源太郎
前橋・ 元総社神社拜殿	天保一四年 (一八四三)	長谷川源太郎
新潟西山町・ 御島石部神社	弘化一二年 (一八四五)	小林源太郎
新潟市・ 白山神社	弘化四年 (一八四七)	熊谷源太郎
中魚沼郡・ 諏訪神社本殿	嘉永元年 (一八四八)	小林源太郎 (棟札及び代金受取証文)
魚沼市・ 西福寺鐘楼	嘉永三年 (一八五〇)	熊谷源太郎
南魚沼郡・ 天昌寺	嘉永七年 (一八五四)	熊谷源太郎
長岡市・ 秋葉神社	安政年間	熊谷源太郎
高崎市・ 榛名神社双龍門	安政二年 (一八五五)	熊谷源太郎
高崎市・ 生原北野神社	文久元年 (一八六一)	小林源太郎
中魚沼郡・ 久昌寺		熊谷源太郎

飯田仙之助・岩次郎の足跡

寺社名	年代	備考
太田市・ 冠稲荷神社	文化一二年 (一八一五)	奥殿側面に仙之助による「虎溪三笑」の嵌込彫刻が残る。大工棟梁は、飯田和泉藤原安軌(仙之助の兄)。
東松山市・ 箭弓稲荷神社	天保六年 (一八三五)	拝殿は、天保六年(一八三五)に飯田仙之助、本殿は寛政九年(一七九七)に小林源八正信が手がけている。
埼玉吉見・ 息障院	天保一一年 (一八四〇)	飯田岩次郎が和泉守安軌と共に山門を手がけている。
深谷市・ 正福寺	安政二年 (一八五五)	飯田岩次郎、息・源太郎父子の共作。
秩父下郷・ 笠鉢	安政二年 (一八五五)	岩次郎が腰支輪を修理。
東松山市・ 八雲神社	安政六年 (一八五九)	本殿彫工が仙之助、向拝竜は息・岩次郎作。
花園町小前田 本町・屋台	明治元年 (一八六八)	飯田岩次郎作。
川越市・ 氷川神社	明治三年 (一八七〇)	棟梁・印藤捨五郎由道。彫師・島村俊表で、飯田岩次郎は途中から参加。
長瀬・ 宝登山神社	明治七年 (一八七四)	彫工・岩次郎(社伝)。
秩父下郷・ 笠鉢	明治一一年 (一八七八)	岩吉(源太郎)が腰支輪を修理。



聖天堂と同時期に建立
された建造物①

県指定文化財
「諏訪神社本殿」

33

修復前



35

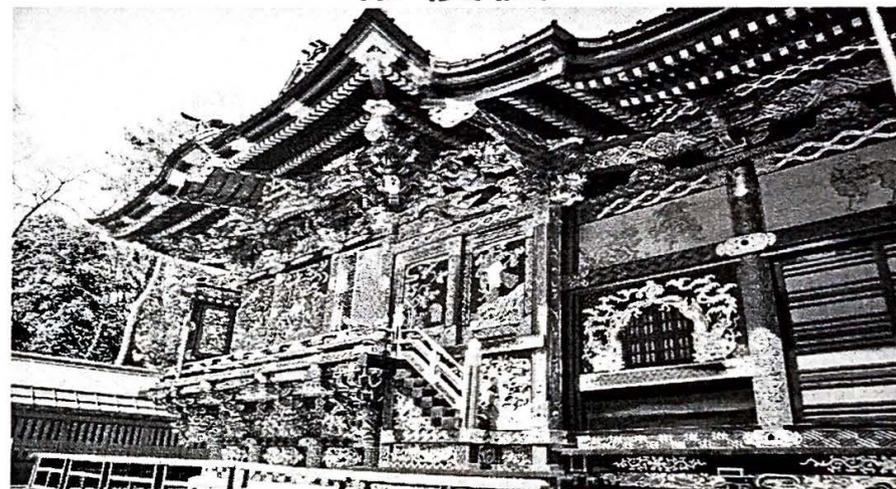


聖天堂と同時期に建立
された建造物②

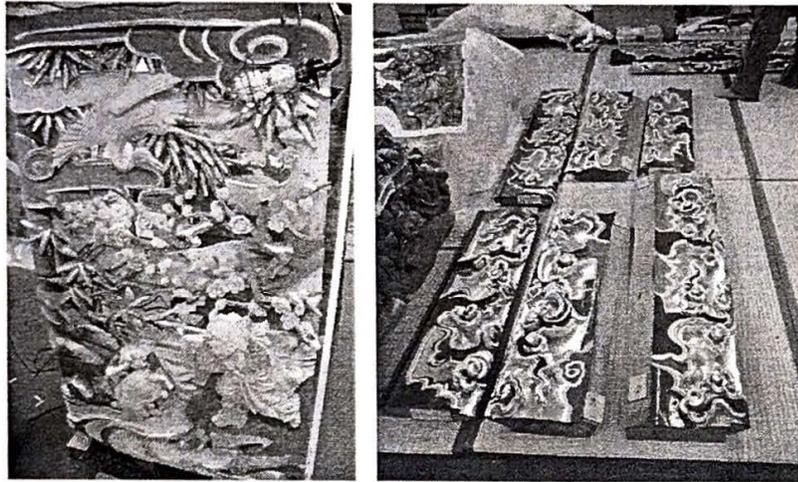
熊谷市指定文化財
「冑山神社本殿」

34

修復後



36

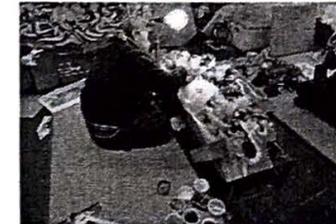


大羽目彫刻の修理・彩色塗り直し・和紙養生の課題

技術や技能の保護・伝承

文化庁では、文化財の保存に欠くことができない伝統的な技術や技能で、保存すべきものを選定し、その保持者や保存団体を認定する選定保存技術制度を設けている。

建造物修理・屋根瓦製作鬼師・建造物木工・檜皮採取・建造物装飾・建造物彩色・銕金具製作・鋳物製作・左官(漆喰塗)・檜皮葺・柿左官(古式京壁)・茅葺左(日本壁)等が挙げられる。



国宝の極彩色 乾燥劣化進む



「国宝の極彩色 乾燥劣化進む」

東京新聞
2017年12月15日

250 4 41

妻沼聖天山・国登録有形文化財 建造物の概要

「歡喜院籠堂、鐘楼(しょうろう)、関伽井堂(あかいどう)、三宝荒神社、五社大明神、天満社、仁王門、水屋、平和の塔」9件が登録有形文化財(建造物)に登録された。平成29年5月2日、官報告示され正式決定。



平和の塔



仁王門

【研究】: 奥殿彫刻の下絵に関する検討について



奥殿大羽目彫刻西側中央
「布袋・恵比寿・碁打ち大黒」「囀遊び」

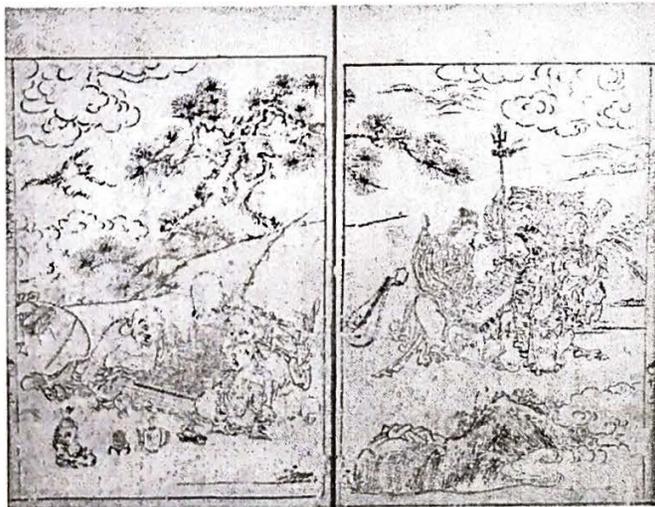


奥殿大羽目彫刻北面東
「吉祥天・毘沙門・弁天双六」「双六遊び」



本殿「囀彫刻」の
お手本か
毎日新聞
2017年6月8日
（妻沼聖天山での「本因坊」
戦開催当日）

橘守国『絵本故事談』との関連



橘守国『絵本故事談』第二巻
「七福神」の挿絵 *17世紀終わり*

左側が、「布袋・恵比寿・寿
老人・大黒」(左から)
右側が、「吉祥天・毘沙門・
弁財天」(左から)

*聖天様
私は
傳はばい*

これを生かして

お手本か? 2+2のか

国宝「歎喜院聖天堂」
を拠点とした彫刻師の系譜から
地域の信仰の歴史を知る。



「歎喜院聖天堂」奥殿彫刻「小間取り遊び」

終

人物師